

平城遷都1300年記念事業



第19回

さくらサミット

in よしの

未来へ！桜を守り育てよう

プログラム

平成22年7月16日(金)

吉野山ふるさとセンター

主催◇吉野町、財団法人自治総合センター、第19回さくらサミット in 吉野実行委員会(吉野町、吉野の桜を守る会、吉野町観光協会、吉野山自治会、財団法人吉野山保勝会、吉野山観光協会、総本山金峯山寺)

後援◇総務省、奈良県、一般財団法人奈良県ビジターズビューロー、社団法人平城遷都1300年記念事業協会、環境省近畿地方環境事務所、NHK奈良放送局、奈良テレビ、読売新聞大阪本社、朝日新聞奈良総局、日本経済新聞社奈良支局、毎日新聞社奈良支局、産経新聞社奈良支局、奈良新聞社、奈良日日新聞社、近畿日本鉄道株式会社、奈良交通株式会社、株式会社南都銀行、吉野町商工会、吉野青年会議所

このシンポジウムは、全国モーターボート競走施行者協議会からの拠出金を受けて実施するものです。

● CONTENTS ●

ごあいさつ	2
シンボルマーク・さくらサミット憲章・桜里園ネット	3
サミット加盟自治体	4
これまでの開催地・テーマ一覧	5
スケジュール	6
講師プロフィール	7
加盟自治体の紹介	
北海道新ひだか町	8
秋田県仙北市	9
宮城県柴田町	10
福島県富岡町	11
茨城県日立市	12
群馬県前橋市	13
埼玉県北本市	14
埼玉県幸手市	15
東京都北区	16
新潟県新発田市	17
新潟県上越市	18
長野県伊那市	19
岐阜県各務原市	20
岐阜県本巣市	21
鳥取県南部町	22
島根県益田市	23
島根県雲南市	24
長崎県大村市	25
熊本県水上村	26
宮崎県日南市	27
奈良県吉野町	28

ごあいさつ

吉野町長 北岡 篤



吉野の桜の木々は緑に覆われ、木漏れ日も輝く季節となりました。
本日は、吉野によろこお越しくございました。心から歓迎いたします。

「第19回さくらサミット in よしの」を開催するにあたり、全国さくらサミット加盟自治体の皆様方には、何かとお忙しい時期にもかかわらず、遠方よりご参加いただき、また、準備の段階から何かとご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、このサミットは、「桜」をキーワードにしたまちづくりを推進している自治体が連携をとり、共に発展していくことを目的とし開催されていますが、私ども吉野町での開催は今回が2回目となります。

前は平成6年に「さくら文化の醸成」をテーマとして開催し、古来から日本人の心の深きところに咲き、日本の歴史、文学と深くかかわりながら地域の文化をつくりあげてきた桜を保護育成し、その恩恵を受けながら、加盟自治体の交流、親善を深め、地域特有の「さくらの醸成」に責任を持って取り組むとともに、一層の地域活性化を図っていくことを約束したところです。

近年、環境の変化などにより桜樹の被害や衰退が全国的に叫ばれるようになってきました。
当町におきましても、地元の（財）吉野山保勝会が中心となり、桜の保護育成に努めてまいりましたが、近年、吉野山の桜の状況は深刻さを増しています。

本日ご出席いただきました自治体におかれましても、さまざまな問題点やご苦労をお持ちのことと思います。

そこで今回は、「未来へ、桜を守り育てよう！」をテーマに毎春、素晴らしい景色で人々の目を楽しませ、心を癒してきた日本の代表的な花「桜」の景観を絶やさず後世に伝えていくことこそ私たちの使命であると考え、先人たちの思い入れを再認識し、後世に残していくために何が必要なのか、各地のさまざまな問題点や取り組みなどを討議していただき、より良い解決策を見出す出発点とすることで、各地の桜のまちづくりの未来に寄与できるものと確信いたします。

最後に今サミットを開催するにあたり、ご後援・ご協力いただきました関係各位に、感謝申し上げますとともに、本日で参加いただきました皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしましてごあいさついたします。

さくらサミット シンボルマーク



さくらサミットのシンボルマークは、長野県高遠町で開催された第2回さくらサミットで採択されました。地球を表す円と桜の花びらで構成され、全体として人をイメージ化しています。人と人、まちとまちから始まるサミットの連帯・強力・調和が、グローバルな広がりを見せ、未永く継続していくことを表現するシンボルとして制作されたものです。

さくらサミット憲章（平成元年9月22日制定）

Success 成功

第1条：今後ともさくらサミットを開催し、サミットとサミットに参加するそれぞれの自治体のまちづくりを成功させるため互いに取り組みを進めます。

Approach 接近

第2条：「21世紀のまちづくり」という目標を限りなく実現に近づけるため、相互に連携、協力しあって花を咲かせることが出来るように努めます。

Keyword 言葉

第3条：まちづくりの共通標榜である「桜」をキーワードとして「桜」に関する人や物の交流、情報の交換を行い、新しいまちづくりの手がかりを見出します。

Unity 調和

第4条：文化、教育、福祉、産業、観光そして災害対策などにおいて、相互の連携、協力をとり、調和のとれたまちづくりを行うよう心がけます。

Relation 縁

第5条：「桜」によって結ばれた縁を大切にし、お互い友好を深め、21世紀に向かって前進していきます。

Agreement 合意

第6条：共通の目標に向け、ふれあいと連携を築き、それぞれの自治体の進展と住民の生活文化向上に努めることに合意します。

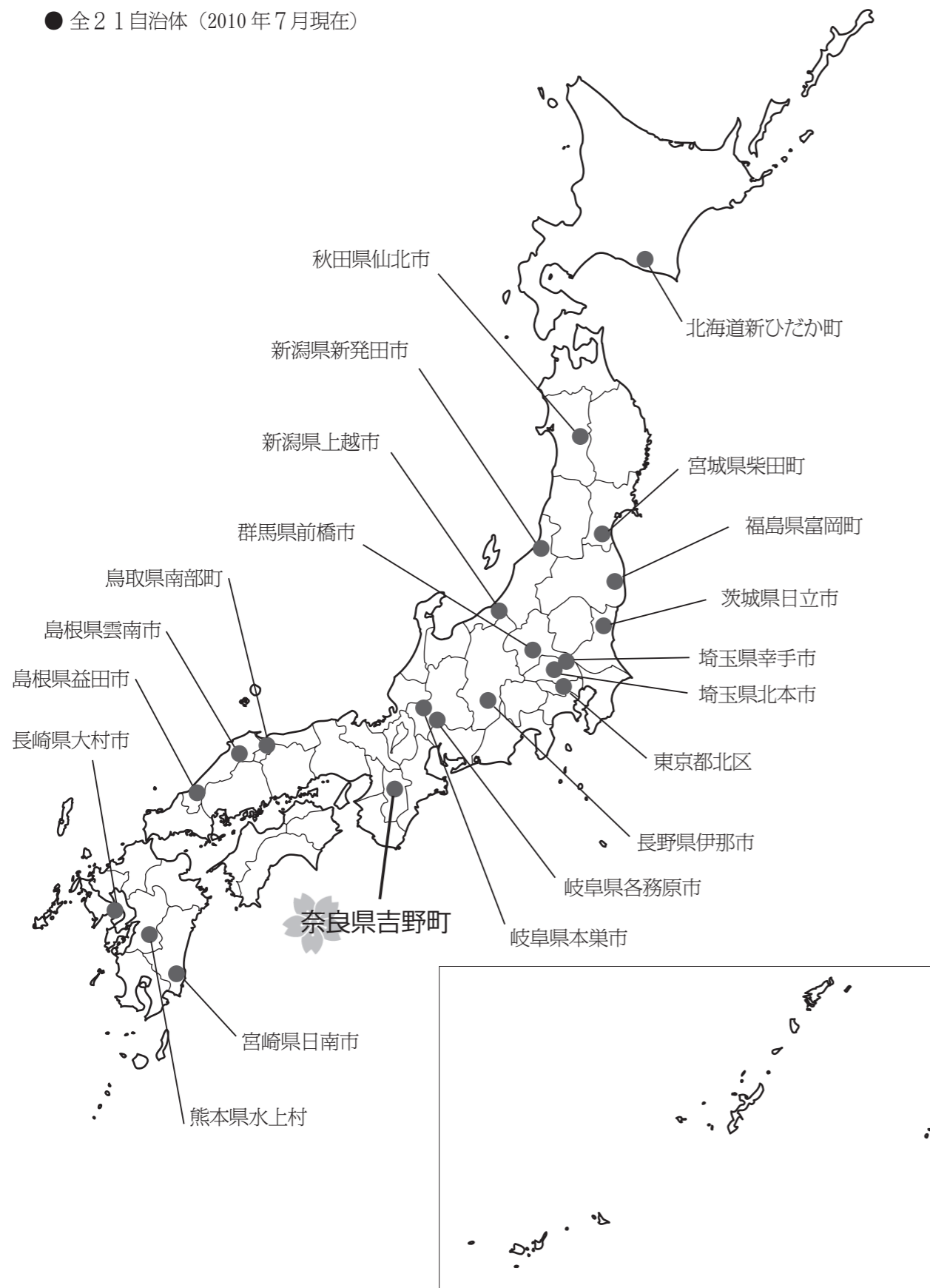
オリオン 桜里園ネット

平成18年1月に開催された「第16回さくらサミット in 富岡」において、サミット加盟自治体の連携強化・情報交換の促進のために各自治体のWEBサイトを結ぶ「桜里園（オリオン）ネット」を構築することが承認され、立ち上がりました。さくらサミット加盟自治体へのとびらとして活用されています。

◆ URL ◆ http://www.gyosei.co.jp/home/company/jigyousei_create_sakura02.html

サミット加盟自治体

● 全21自治体 (2010年7月現在)



これまでの開催地・テーマ一覧

	開催地	開催日	テーマ
第1回	島根県木次町	昭和63年4月11日(月)	"桜"によるまちづくりと地域間交流
第2回	長野県高遠町	平成元年9月22日(金)	桜によるまちづくりと地域活性化
第3回	群馬県鬼石町	平成2年11月15日(木) 16日(金)	桜による地域開発
第4回	秋田県角館町	平成3年4月30日(火)	桜による産業づくりと文化
第5回	長崎県大村市	平成4年4月4日(土)	桜をめぐる観光と交通
第6回	奈良県吉野町	平成6年4月21日(木)	さくら文化の醸成
第7回	高知県佐川町	平成7年4月6日(木) 7日(金)	桜に憩う、桜を楽しむ
第8回	北海道静内町	平成8年5月9日(木) 10日(金)	さくらサミットからの桜情報の発信
第9回	新潟県上越市	平成9年4月13日(日)	桜のまちづくりと住民参加
第10回	東京都北区	平成10年4月5日(日)	さくらがつくる歴史と文化
第11回	宮崎県北郷町	平成11年4月4日(日) 5日(月)	人にやさしく桜にやさしい環境づくり
第12回	埼玉県幸手市	平成12年4月9日(日) 10日(月)	幸せの手でつかむさくらの未来
第13回	茨城県日立市	平成13年4月7日(土)	桜と語るさくらの未来 ～元気さくらとネットワーク
第14回	岐阜県根尾村	平成14年5月18日(日)	さくらと歩む地域の未来
第15回	熊本県水上村	平成16年9月30日(木) 10月1日(金)	桜から桜まで ～ツーリズムと通年型観光～
第16回	福島県富岡町	平成18年1月26日(木) 27日(金)	～桜でひとつになる瞬間(とき)～ 未来への架け橋
第17回	長崎県大村市	平成19年4月14日(土) 15日(日)	わがまちの桜とまちづくり
第18回	秋田県仙北市	平成21年7月11日(土) 12日(日)	～さくら・景観～
第19回	奈良県吉野町	平成22年7月15日(木) 16日(金)	未来へ！桜を守り育てよう

スケジュール

第1日：7月15日（木）

※第1日目は、加盟自治体関係者のみの参加で開催します

- 13：00 事前会議
- 14：30 エキスカーション
- 16：00 サミット開催記念講話
「蔵王権現と桜」 講師：田中 利典氏
(金峯山修験本宗宗務総長・金峯山寺執行長)
- 18：00 交流会

第2日：7月16日（金）

- 8：30 開場
- 9：00 オープニングコンサート
出演：ボーカルデュオ フィオーレ
- 9：15 閉会あいさつ
- 9：20 記念講演
「日本人の桜」 講師：福井 良盟氏（竹林院住職・前吉野町長）
- 10：10 報告
「地域で守る千年の桜」 講師：小島 玉雄氏
(財団法人吉野山保勝会 桜調査チーム)
- 10：30 休憩
- 10：45 全体会議
「未来へ！桜を守り育てよう」
コーディネーター：篠田 伸夫氏（前全国町村議会議長会事務総長）
- 12：45 大会共同宣言採択
- 12：50 閉会

講師プロフィール

記念講演



講師

福井 良盟 ふくい・りょうめい

竹林院住職・前吉野町長

1946年生まれ。73年東京大学大学院人文学科研究科卒業後、竹林院群芳園株式会社専務取締役、大峯山語寺院竹林院住職となる。吉野山観光協会理事、吉野山旅館組合役員、吉野青年会議所理事長などを経て、85年、吉野町議会議員に当選。87年町議会副議長、88年吉野町長選に初当選し5期務める。この間、奈良県町村会長、奈良県町村会顧問、全国山村振興連盟副会長、全国観光所在地町村協議会会長、全国簡易水道協議会常任理事、(財)国立公園協会理事等を歴任する。

2008年には20年間の永きにわたり「さくらサミット」の活動に協力、発展向上に貢献したことで、さくらサミット加盟自治体から感謝状を受ける。現在は大峯山寺語寺院竹林院住職。

全体会議



コーディネーター

篠田 伸夫 しのだ・のぶお

前全国町村議会議長会事務総長

1943年鳥取県生まれ。67年京都大学卒業後、自治省入省。青森県地方課長、出雲市助役、消防庁救急救助室長を経て、88年に岐阜県総務部長兼博覧会推進局長として「ぎふ中部未来博覧会」を成功に導く。その後、自治省振興課長、東京都総合計画部長、岐阜県副知事、消防庁次長、救急振興財団副理事長、全国町村議会議長会事務総長などを歴任。現在、全国仮設安全事業協同組合専務理事、NPO法人救急ヘリ病院ネットワーク副理事長。

「第10回さくらサミット in 北区」より、コーディネーターを務めている。

まちの概要

新ひだか町は、平成 18 年 3 月 31 日にそれまでの「静内町」と「三石町」が合併して新たに誕生した。

新ひだか町は北海道の南東部日高支庁館内の中央に位置し、日高随一の盛観さをもつ日高山脈を背に雄大な太平洋を一望でき、温暖で緑あふれる自然に恵まれた、産業、経済、文化が発達した日高地方の中核都市である。

また、国内でも有数の馬産地であり、ダービー馬ウイングチケット、タニノギムレットをはじめ、G I 7 勝のウオッカなど、数多くの名馬を輩出し続けている。

桜の概要



約 3,000 本の桜が直線で 7 km にもわたって咲き誇る一本道、二十間道路。そのスケールは日本屈指である。左右の並木の幅がちょうど二十間 (36m) あることからそう名付けられ、日本を代表する桜の名所として「日本の道百選」や「さくら名所 100 選」、「北海道遺産」等にも選定されている。

かつてこの地にあった宮内省の御料牧場を視察する皇族の行啓道路として造成されたのがはじまりで、1916 (大正 5) 年から 3 年をかけて近隣の山々の桜が移植された。

桜はほとんどが「エゾヤマザクラ」一種であることから、開花時期の 5 月上旬には競うかのように一斉に花が開く。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

町のシンボルの一つとして長年にわたり愛され続けた二十間道路の桜は、ほとんどが樹齢 90 年を超える高齢樹であるため、樹勢の衰えが随所に見受けられる。そのため、樹勢回復と延命治療が最大の課題であると位置付けており、今もなお、調査・治療を継続的に実施している。

また、多くの方の善意により今もなお増え続ける「さくら基金」は、「二十間道路桜並木」を後世に残すべき貴重な財産として守り続けるため、今後の有効的な活用方法を検討している。

◇新ひだか町 web サイト：<http://shinhidaka.hokkai.jp/>

まちの概要

仙北市は、秋田県の東部中央に位置し、岩手県と隣接している。平成 17 年 9 月 20 日に田沢湖町、角館町、西木村の旧 3 町村が合併し形成された。仙北市のほぼ中央に水深が日本一の田沢湖があり南に秋田こまちの産地仙北平野へと開けている。地域の約 8 割が森林地帯で、玉川温泉や乳頭温泉郷と温泉にも恵まれている。

角館町地区には、元和 6 (1620) 年の町並みが現存し、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。山桜の樹皮を原材料とした伝統工芸榊細工でも知られている。

桜の概要

仙北市角館町の国指定 2 件の桜は、雪に閉じ込められた長い冬の終わりの証として多くの人々に春の訪れを見せてくれる。

武家屋敷一帯のシダレザクラは藩政時代以来の歴史的記念物であり、今ではこの一帯の不可欠な景観構成要素となっており、花の時期はもちろんだが、四季を通じ歴史的風趣を添えている。

一方、まちの中央部を流れる檜木内川堤のソメイヨシノの桜並木は、昭和 9 年今上陛下の誕生を祝い記念植樹したものである。樹齢約 70 年 2 km の桜並木には、老木の桜が今も壮観な花のトンネルを見せている。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

伝建群に選定されている武家屋敷の修理風景や国指定の角館のシダレザクラや、国名勝の檜木内川堤の桜他の保存管理等、市内の文化財を守りながらその情報を発信することにより、新規の方はもとより、リピーターの方に何度も訪れていただけるような安らぎを与えたい。また、市内の標高差による開花推移によって、それぞれの景観を長く楽しんでいただけるよう努めたい。

平成 22 年度からは新たに桜係を設置し、さくらアドバイザー (黒坂登氏) の指導のもと、桜の維持管理を今まで以上に丁寧に実施したいと考えている。



◇仙北市 web サイト：<http://www.city.semboku.akita.jp/>

まちの概要

柴田町は、仙台駅から南に25kmに位置し、町の総面積は53.98 km²、人口は39,496人の県南最大規模の町。

藩政時代、伊達騒動で知られる原田甲斐と名門柴田家の城下町として栄えた「船岡」と、奥州街道の64番目の宿場町として栄えた「槻木」が、昭和31年に合併して誕生した町である。

桜の概要

柴田町には、日本のさくら名所100選に選ばれた「船岡城址公園」と「白石川堤一目千本桜」があり、東北有数の桜の名所として知られている。毎年「しばた桜まつり」が開催され、県内外から20万人を超える花見客で賑わう。

「船岡城址公園」では、1,000本を超える染井吉野桜が咲き誇り、満開時には全山が桜色に染まる。「白石川堤一目千本桜」は、町から大河原町に至る総延長8kmに約900本のソメイヨシノが植えられている。



桜についての考え方、今後の施策・整備について

およそ100年の歴史をもつ桜の景観を町の誇りとする「柴田さくらの会」をはじめ町民各位のご尽力により、町内のいたるところに桜の植栽事業を展開してきた。このことにより数的には充足された観がある。

今後は、この景観を後世に承継していく施策の展開が喫緊の課題であると考えている。例えば、桜の古木をどうするのか、植え替えするとなれば、ソメイヨシノに拘るべきか。町民の各種希望を取り入れて桜を植栽したら良いのか等の意見を踏まえ、町民と協働により早期に実施したい。

◇柴田町 web サイト：<http://www.town.shibata.miyagi.jp/>

まちの概要

富岡町は、福島県浜通り地方の中央部に位置し、東は広大な太平洋が広がり、西は緑豊かな阿武隈山系に囲まれた町である。人口は約16,000人。町内を二分して太平洋に注ぐ富岡川や阿武隈山系を流れる滝川溪谷、大倉山、麓山などの山々、断崖絶壁の海岸線、離れ島が散在する浜辺など大自然の宝庫である。四季を通じてしのぎやすい温暖な気候に恵まれ、降水量も比較的少なく、農作物の栽培に適した暮らしやすい地域。福島第二原子力発電所より首都圏へ電気を供給している「電気のふるさと」でもある。

桜の概要

富岡町の夜の森（よのもり）の桜は、明治30（1900）年、半谷清寿（はんがいでいせいじゅ）氏が荒野だったこの地を開拓のため入植したとき、宅地周辺に300余本のソメイヨシノを植えたのが始まりとされている。

その後、清寿氏の次男・六郎氏や地域住民に受け継がれ、花の町へと生まれ変わった。樹齢100年を超える桜も含めて、約2.5km続く桜並木となっている。平成2年には、(財)日本さくらの会による「別選さくら名所」に選定された。

これらを含め、現在、町内には約2,400本の桜が咲き乱れる。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

春の桜祭りは「さくらYOSAKOI」を同時イベントとして開催し、駐車場利用者からは桜の保護保存を目的とした協力金制度を設け、テングス病枝の除去や新たな植栽活動資金として活用している。

また、桜の剪定枝や支障木を原料とした染め物に取り組み、「桜染め」として県特産品コンクールの県知事賞を受賞。冬場の桜の利活用として「枯葉イベント」も開催し、町内の子どもたちに桜とのふれあいを提供している。

今後も桜をキーワードとして、町民・観光客参加型の桜還元事業を展開し、桜の町「富岡」のPRに努めたい。

◇富岡町 web サイト：<http://www.tomioka-town.org/>

◇富岡町観光協会 web サイト：

<http://www.harurara.com/home.html>

◇富岡町商工会 web サイト：<http://www.pulapula.net/>



まちの概要

日立市は太平洋と阿武隈山地に囲まれた自然豊かなまちであり、日立鉱山から発展した、わが国を代表する産業都市である。

また、伊師浜国民休養地は、ウミウの捕獲地として知られ、長良川をはじめ全国の鶴飼地にウミウを供給している。

特色としては、市民運動が盛んで、福祉事業や生涯学習、地域コミュニティから桜のまちづくりまで、多くの団体が幅広く活動し、「地域の力で拓く 人・まち 輝く新生日立」を基本計画の目標としている。

桜の概要

大正初め、煙害で荒廃した山々に、日立鉱山が「大島桜」など煙害に強い苗木を大量に植林したのが始まりとされる。桜のトンネルをつくる平和通やかみね公園は「日本のさくら名所100選」に選ばれている。

また、十王パノラマ公園には35種約400本の桜が植えられており、平和通、かみね公園と併せて日立さくらまつりの会場となっている。

本市特有の桜品種として、平成18年8月に「日立紅寒」が種苗法に基づき品種登録された。



桜についての考え方、今後の施策・整備について

日立の桜は、市民・企業・行政が鉱山の煙害をきっかけにまちづくりに取り組んできた表れであり、歴史的に築かれてきた大切な資源である桜を次世代に伝えていくために官民一体となり、事業を推進していきたい。

また、日立固有の品種として登録された「日立紅寒桜」についても、それを活かした事業を検討しながら、苗木の育成を推進していきたい。

一主な整備等

- ・ テングス病枝除去事業の実施
- ・ 日立紅寒桜の育成の推進

◇日立市 web サイト : <http://www.city.hitachi.ibaraki.jp/>
◇日立市観光協会 web サイト : <http://www.mito.ne.jp/~h-kanko/>

まちの概要

群馬県のほぼ中央にある上毛三山の雄「赤城山」の山頂までを市域とする前橋市は、清らかな水をたたえた利根川や広瀬川が市内を流れる、緑豊かで自然に恵まれた都市である。

群馬県の県都として発展し続けてきた本市は、平成21年4月、県内初の中核市として新たなスタートを切った。

萩原朔太郎をはじめ多くの詩人を生み出したことから、「近代詩のふるさと」ともいわれ、「水と緑と詩(うた)のまち」をキャッチフレーズにしている。

桜の概要

赤城南面千本桜は、(財)日本さくらの会「日本のさくら名所100選」にも選ばれた名所であり、毎年4月に開催される桜まつりでは、約2kmに渡ってできる桜のトンネルを見に、多くの観光客が訪れている。

また、赤城南面千本桜に隣接して整備された「みやぎ千本桜の森公園」には、12種、約400本の桜と約10万株の芝桜が植えられ、桜と芝桜を楽しむことができる。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

赤城南面千本桜は、戦後の荒廃した山林に豊かな緑を復活させようと、地域住民が一丸となって昭和31年からソメイヨシノを植栽した桜並木である。植栽されてから50年以上経過していることから将来にわたってこの地を桜の名所として継承するため、隣接地にみやぎ千本桜の森公園を整備してきた。

公園内の桜は、千本桜と同様、地域住民が中心となり植栽や管理を行っているほか、平成19年からは市民に親しまれる公園づくりの一環として、「芝桜ひろげたい運動」を展開し、毎年桜まつり期間中に1万株の芝桜が植えられている。そして、地域住民による公園愛護会が組織され、除草作業などの管理も市民の手により行われている。



◇前橋市 web サイト : <http://www.city.maebashi.gunma.jp/>
◇前橋観光コンベンション協会 web サイト : <http://www.maebashi-cvb.com/>

まちの概要

北本市は東京から40～45kmの位置にあり、武蔵野の面影を残す雑木林が点在する緑豊かな住宅都市である。昭和46年11月3日に埼玉県内33番目の市として誕生した。

まちづくりの方針に「ずっと住み続けたいまち、きたもと」を掲げ、経済・教育の活性化、便利で公正な行政サービスの提供、子育て支援の充実、自然環境の保全などの取り組みを進めている。

桜の概要



北本市の桜には、日本五大桜の一つで、大正11年に国の天然記念物に指定された樹齢約800年の「石戸蒲ザクラ」(他に福島県三春の滝ザクラ、山梨県武川村の山高神代桜、静岡県富士見市の狩宿の下馬ザクラ、岐阜県本巣市の根尾谷淡墨桜)、市の天然記念物として指定されている樹齢約200年の「高尾エドヒガンザクラ」、ソメイヨシノの「石戸城ヶ谷堤」など、桜の名所が数多くあり市民に親しまれている。平成7年には石戸蒲ザクラの後継樹や北本市に転入された方々の故郷から送られた11種182本の様々な種類の桜を植栽した「高尾さくら公園」を開設し、毎年市内外から多くの人々が訪れている。

また、市内の雑木林には、大宮台地における全ての自生種、ヤマザクラ、エドヒガンザクラ、シダレザクラ、ウワミズザクラ、イヌザクラが今なお健在に自生しており、街路樹として八重桜や企業内の緑地にソメイヨシノなど多くの桜が植栽されている。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

イメージアップ推進のため、市の花である桜を、市民一体となって魅力あるまちづくりを目指す指針として「観せる」「伝える」「創る」という3つの展開方針に沿って事業を推進する。また、石戸蒲ザクラは推定樹齢800年という高樹齢で樹勢が低下しており、樹勢維持のための施肥・外科的処置を行うとともに、市民配布したクローン技術を用いた後継樹の育成管理を推し進めていく。

◇北本市 web サイト：<http://www.city.kitamoto.saitama.jp/>

まちの概要

幸手市は、埼玉県の北東部に位置し、東京まで約1時間、人口5万4千人の緑豊かな住宅都市として発展している。かつては、日光街道の宿場町として栄え、現在では東京へのベッドタウンとしての役割を持つ一方、市の東側には豊かな田園地帯が広がる。

平成24年度には圏央道が開通予定であり、インターチェンジが設置され、周辺地域に新たな工業団地の整備が計画されている。

桜の概要

市内北部の権現堂堤には約1,000本の桜が1kmに渡って連なり、周辺には菜の花が作付けされ、桜のピンクと菜の花の黄色とのコントラストが見事である。

今年開催された第80回幸手桜祭りでは、約81万5千人もの花見客で賑わい、関東屈指の桜の名所となっている。

また、地元住民で組織されたNPO法人幸手権現堂桜堤保存会が中心となって、桜や権現堂堤の保全を活発に行っている。



桜についての考え方、今後の施策・整備について

NPO法人幸手権現堂桜堤保存会が主体となり、権現堂堤の環境整備を行っているほか、紫陽花、曼珠沙華、水仙といった花を植栽し、桜だけではなく四季折々の花を楽しめる公園として権現堂堤を整備している。また、権現堂堤の桜は樹齢が60年以上になるため、現在では桜の維持管理に重点を置き、桜の保護や手入れを主体に事業を進めている。

◇幸手市 web サイト：<http://www.city.satte.lg.jp/>

◇幸手市観光協会 web サイト：<http://www.satte-k.com/>

まちの概要

武蔵野台地の縁辺部から東京低地へと連続した地勢を有する北区は、東京の北の玄関口に位置し、人口約 33 万人のまちである。石神井川や荒川の水流を利用して近代産業が発展してきたが、戦後、軍用施設が解放され住宅団地となり、都市化による工場の地方移転など時代とともに大きく変化してきた。現在は、飛鳥山の桜、荒川の水辺空間など緑豊かなうるおいのあるまち。JR や地下鉄、都電が区内を走り、商店街が賑わう、便利で活気のあるまちである。

桜の概要

首都圏にも、今では数々の桜の名所があるが、北区の桜は、江戸時代中期にまで遡る。北区・飛鳥山の桜は八代将軍徳川吉宗の肝いりで 1,270 本が植樹され、江戸庶民の花見場所として日本全国に知れわたった。歌川（安藤）広重や葛飾北斎など、世界的な評価を受けている絵師たちが、飛鳥山の桜を数多く、錦絵に残している。

現在はソメイヨシノなど約 650 本の桜がある。区内には飛鳥山をはじめ、荒川土手の桜並木など桜の見どころは多数あり、春には多くの花見客が訪れている。



桜についての考え方、今後の施策・整備について

北区は、区の木を桜と制定した。また、北区のイメージアップを図るため、「交通」「さくら」「ルネサンス＝誕生」をキーワードとしたイメージ戦略ビジョンを策定し、桜の花びらと明るいさくら色をモチーフとしたコミュニケーションマークを作成し、北区のイメージと知名度の向上を図るツールとしている。

また、平成 10 年度に「第 10 回さくらサミット in 北区」が開催されたことを記念して、飛鳥山において「さくら SA * KASO 祭り」が実施され、今年で 13 回目となり、区民が実施している行事への支援を行っている。

◇北区 web サイト：<http://www.city.kita.tokyo.jp/>

まちの概要

新発田市は、県都新潟市に隣接する阿賀北の中核都市で、北西には白砂青松と形容される美しい海岸が広がり、南東には磐梯朝日国立公園、胎内二王子県立自然公園がある。

城下町の歴史と文化、全国的にも有名な月岡温泉、山から海までの豊かな自然など、たくさんの魅力を持つ新発田市は、「愛せるまち、誇れるまち、ふるさと新発田の創造」を目指し、これからも発展していきたい。

桜の概要

日本で最も小さいといわれている櫛形（くしがた）山脈。その主稜のひとつである大峰山には、長い年月の間に自然交配された桜樹の原生林が広がっており、ヤマザクラ 40 種類 1,000 本を見ることができる。この「椽平（とちだいら）桜樹林」は、昭和 9 年に国天然記念物に指定された。また、その麓には世界の桜 109 種類 300 本が植栽された桜公園があり、多くの観光客が楽しみに訪れる。

かつて長堤十里世界一と言われた 12km に 6,000 本の桜が連なる加治川桜堤があった。この羽越水害により失われてしまった姿の復元に取り組み、現在では約 600 本の桜を見ることができる。また、かつての桜が 1 本だけ残っている。

「日本の歴史公園 100 選」に選ばれている城址公園には、860 本の桜が植栽されている。開花時期には、ボンボリが設置され、ライトアップされた新発田城とともに夜桜を楽しむことができる。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

桜は当市の木に認定されており、新発田地域には新発田城址公園、加治川地域には大峰山、紫雲寺地域には加治川堤と市内各地に桜の名所が存在し、桜を利用したまちづくりを推進している。

加治川堤はかつて延長約 12km、6,000 本が植樹され桜の名勝地として知られていたが、水害により全て伐採された。



◇新発田市 web サイト：<http://www.city.shibata.niigata.jp/>

◇加治川商工会 web サイト：<http://www.niigata-hi-system.com/kajikawa/>

まちの概要

新潟県の南西部に位置する上越市は、その昔、越後国府が置かれ、古くから交通の要衝として栄えた長い歴史に育まれたまちである。戦国時代の名将上杉謙信公の居城であった春日山やゆかりの地をはじめ、多くの地域資源を有し雄大な日本海と豊穡の大地、四季折々の美しい山々に抱かれた豊かな自然と歴史文化にあふれている。

桜の概要



ソメイヨシノを中心に約4,000本の桜が植えられている高田公園では、毎年見頃となる時期にあわせて観桜会を開催。ぼんぼりの明かりに照らし出され、お堀の水面に映る様は大変美しく、日本でも有数のものとして知られている。

その他市内には、公園や湖畔など桜の名所が数多くあり、4月前半から後半まで、各地で桜を楽しむことができる。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

上越市の木として定められている桜は、昔から地域住民にとって身近なものとして大切にされていることから、今後も桜の保護に努めていく一方で、毎年4月上旬から中旬に高田公園を会場に開催される「高田城百万人観桜会」は、上越市の観光の目玉として一番の集客を誇っている。特に夜のライトアップは幻想的な雰囲気を出し、多くの人を魅了していることから、夜桜を中心に今後も積極的な集客を図っていくこととしている。

◇上越観光ネット：<http://www.city.joetsu.niigata.jp/kankou/index.html>

まちの概要

平成18年3月31日に伊那市、高遠町、長谷村が市町村合併し、人口約74,000人の新「伊那市」となった。

高遠城址公園の桜はもとより、中央アルプスと南アルプス、市内中心を流れる天竜川・三峰川などの雄大な自然を有し、「二つのアルプスに抱かれた自然共生都市」として、産業・観光の発展と自然環境との共生を目指している長野県南部の中核都市。

桜の概要

明治の廃藩置県により高遠城が取り壊されたが、明治8年に有志の手で近くにあった桜の植樹が行われ高遠城址公園としての整備が始まり、現在に至っている。

この桜はタカトオコヒガンザクラというコヒガンザクラの一種で大木となり、花も赤みが強い特殊な桜で、約1,500本に及ぶ樹林は県の天然記念物に指定されている。

新「伊那市」となり、ソメイヨシノやコヒガンザクラを有する伊那公園や春日公園を始めとする桜の名所が市内各地に数多く存在している。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

伊那市では、日本一の桜の里づくりをめざしている。

市民の桜に対する思いやり、愛着心の醸成を図るため、桜守協力のもと、桜の整備や市民による市内の植樹を拡大するとともに、友好都市等と連携した桜の植栽を行っている。

また、市内三大公園の桜（高遠城址公園、伊那公園、春日公園）を結びつけ、ニーズにあった公園整備と周回するためのしかけや、市内に点在する桜の名木を観光資源化すべく、パンフレットの作成等を行っている。

今後は、桜の観光客をさらに増加するため、県外、海外に積極的に誘客活動を行う一貫として、外国語のパンフレット作成や看板整備、桜関連商品造成等滞在型の仕組みづくりを行っている。



◇伊那市観光協会 web サイト：<http://inashi-kankoukyoukai.jp/cms/modules/tinyD/>

まちの概要

各務原市は、岐阜県の南部に位置する人口 15 万人の都市である。市北部は水源林としての里山、南部には、古来より豊かな恵みをもたらしてきた木曾川、中央部には各務原台地という地形を活かし、自然と都市機能の調和、人生潤す癒しの空間の創出、地球環境に直結する水と緑ゆたかな「公園都市：パークシティ」を都市ビジョンとしている。

桜の概要

「日本さくら名所 100 選」に選ばれた「百十郎桜」をはじめ、数々の桜の名所がある。ボランティアによる保護活動や市民植樹など、市民に愛されて育てられてきた。

そこで、市は、市民憲章推進協議会の提案を受け、平成 22 年 4 月、市民の花木に「さくら」を決定した。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

「桜回廊都市」計画は、平成 26 年度までに市街地を囲む総延長 39km の桜並木の回廊を整備する計画である。平成 15 年度から毎年約 400 人の市民参加による桜植樹を行い、現在 15km が完成している。

また、201 種類の「各務野櫻苑」、1,000 本の苗木を市民ボランティアで植樹した「三井山」などを、桜回廊の拠点として整備を行った。

「桜回廊都市」計画は、市民協働で行うことを基本とし、今後も整備から維持管理まで市民参加によるボランティア活動で進めていく。



◇各務原市 web サイト： <http://www.city.kakamigahara.lg.jp/>

まちの概要

平成 16 年 2 月 1 日に本巣町、真正町、糸貫町、根尾村の 3 町 1 村が合併して人口約 3 万 5 千人余の本巣市となった。

県都の岐阜市の北西に位置し、北は福井県と境を接する山間部から南は濃尾平野の中ほどの平坦部にいたる。南北に細長くて、北に高く南に低い地形となっている。

国指定天然記念物の淡墨桜がある旧根尾村次代から引継ぎ、さくらサミットに参加。

桜の概要

樹齢 1,500 余年の淡墨桜は、継体天皇のお手植えの桜と伝えられる。

桜では日本一の巨木といわれ、「日本のさくら名所 100 選」にも選ばれた。

国指定の天然記念物で、蕾のときは薄いピンク、満開にいたっては白色、散りぎわには淡い墨を引いたような色をおびるといわれる。

過去、幾度も枯死の危機に陥ったが、山桜の根継ぎによる回生手術や作家宇野千代氏ら各界の保護活動によって、現在も盛観を保ち、毎年 4 月上旬には全国から 20 万人もの観光客が訪れる。



桜についての考え方、今後の施策・整備について

現在、市内各所に桜の木が植えられているが、その多くはソメイヨシノであり、比較的寿命が短く病気にも弱いため、管理に経費と労力をかけている。

寿命が長く病気に強い淡墨桜（エドヒガン）の苗木を公共施設を中心に市内の多くの場所に植栽することを推進し、その名の普及を図りたい。

また、平成 18 年度から 5 カ年計画により、淡墨公園及び周辺駐車場などの整備を実施しており、公園内のソメイヨシノについても管理の面から、淡墨桜（エドヒガン）としていく整備を計画している。

◇本巣市 web サイト： <http://www.city.motosu.lg.jp/>

まちの概要

鳥取県西部の島根県境に位置し、東西 12km、南北 17km、面積 114.03km²を有する人口 12,210 人の町で、特産の富有柿・梨・いちじくの生産で有名。

町内には、日本最大級のフラワーパーク「とっとり花回廊」があり、四季それぞれの花が一年中楽しみ数多くの人々が訪れている。

桜の概要

法勝寺城山公園及び法勝寺川沿いの土手には約 33km にわたって続く桜並木がある。夜になりぼんぼりに灯りが灯ると浮かび上がった桜が川面に映し出され、何とも幻想的な雰囲気をかもし出し、多くの人々が訪れている。ソメイヨシノ約 1000 本。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

法勝寺川土手と城山跡に約 700 本のソメイヨシノがあり、満開になると桜のトンネルができる。町のシンボルとなっている桜は、観光資源としても大切なものである。

樹齢 50 年以上の木が多く、病気も発生し、枯木が増加している。桜木のアドバイザーなど専門家に診てもらい、整備が必要であると考えている。

大木が一級河川の土手に植っているため、管理は河川事務所との連絡も欠かすことができない。



◇南部町観光協会 web サイト：<http://www.town.nanbu.tottori.jp/kanko/>

まちの概要

益田市美都町は、島根県の西部、中国山地の嶺線に近い中山間地帯にあり、総面積 132.64 k m²の広さを持ち、全面積の 87%が林野で占められている。

人口は 2,700 人。美都温泉、みと自然の森、ひだまりパークみと、秦佐八郎記念館、双川峡、四つ山、金谷城山桜などの観光施設がある。

桜の概要

金谷城山桜 (かねだにじょうざんざくら)

種類：エドヒガン

樹 齢：570 年

樹 高：15m

幹 周 囲：6.67m

由 来：入船山城を築いた澄川氏が金谷の地に移り住んだ際に、城の出丸部分にあたる所に植えたといわれている。



桜についての考え方、今後の施策・整備について

1 本の植え付けされている桜木について病気などの対策を市のさくらの会と一緒に取り組む。

◇益田市 web サイト：<http://www.city.masuda.lg.jp/>

まちの概要

雲南市は、島根県の東部に位置し、松江市、出雲市に隣接、南部は広島県に接し、先人たちが守り育ててきた多彩で魅力ある資源を保有している。

豊かな森林や斐伊川の流れにみられる穏やかな自然、神話に象徴される銅鐸やたたら製鉄の歴史遺産、桜や蛭にみられる生命の多彩な輝きなど「生命と神話が息づく新しい日本のふるさとづくり」をキーワードに、地域資源を最大限活用したまちづくりを推進している。

桜の概要



平成2年に（財）日本さくらの会より、「さくら名所100選」に選定された「斐伊川堤防桜並木」は、ヤマタノオロチ退治の舞台となった斐伊川の清流に沿って約2kmにわたる桜トンネルで、中国地方随一の名所としてその名を馳せている。

この斐伊川堤防の桜は、明治の終わりごろから植えられ始め、市のシンボルとなっており、シーズンには多くの観光客で賑わう。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

雲南市では、ほかにも緑の桜「御衣黄」をはじめ、多くの桜名所があり、市民の関心も高い。平成17年には住民参加組織である「雲南市さくらの会」が結成され、会員募集や管理研修会が積極的に行われている。

今後とも桜のまちづくりに雲南市全体で取り組み、市民共通の誇りとなるような展開を行いたいと考えている。

◇雲南市 web サイト： <http://www.city.unnan.shimane.jp/>

まちの概要

長崎県の中央部に位置し、西に大村湾、東に多良岳県立自然公園を臨む、東西12km、南北16km、総面積126.33km²を有する人口92,75人（H22.5.31現在）のまち。日本初のキリシタン大名「大村純忠」や「天正遣欧少年使節」などキリシタンの歴史や大村湾などの自然を活用して、歴史観光立市を目指した観光地づくりを推進している。

桜の概要

大村市には、「さくら名所100選」に選ばれた大村公園をはじめ、市内の公園、学校等の公共施設を中心にオオムラザクラ、クシマザクラ、ソメイヨシノなど13,000本程度の桜が植えられている。

中でも、国指定天然記念物であるオオムラザクラは、八重桜の2段咲きで花弁の総数が60～200枚もある優雅な花で、里桜中の名花と言われている。大村公園では、桜、花菖蒲など、3月25日から6月20日まで花まつりで賑わう。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

大村公園は、わが国近代公園の先駆者として知られる長岡安平が玖島城址に植えたことに始まり、桜の名所として有名になった。「さくら名所100選」に選ばれたのを契機に「さくらの街おおむら」を広くアピールするための植栽事業を展開し、平成13年度に「さくらの街おおむら推進委員会」を設置して、より一層のさくらの街の推進に向けての取り組みを行っている。今後、「サクラの里づくり」事業として、平成34年度までの計画で、市民と行政が一体となった桜のまちづくりを推進していく。



◇大村市 web サイト： <http://www.city.omura.nagasaki.jp/>
◇大村観光ナビ web サイト： <http://www.omuranavi.jp/>

まちの概要

熊本県の東南部、宮崎県との県境に位置し、総面積 192.11 k㎡のうち、約 92%が森林に囲まれた、人口約 2,500 人の村。

日本三急流の一つ「球磨川」の源が、ここ水上村にある。

桜の概要

昭和 35 年に村の中央部に完成した多目的ダム「市房ダム」の周囲約 14km に、修景事業として 1 万本の桜が植栽された。その後、昭和 59 年に始まった「くまもと日本一づくり運動」の中で、当時の県知事であった細川護熙氏の提唱により、「日本一の桜の里づくり」が始まった。

現在、住民総参加の桜の下草刈り、空き缶・ゴミ拾い等、住民一人ひとりの手で育て



られている。また、「桜図鑑園」には約 80 種類の桜の木が植栽されており、観光面での整備がなされている。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

昭和 35 年に完成した水上村市房ダム湖。完成後、当初 1 万本の桜の木がダム湖に植栽され、村民ボランティアの管理等で現在では 2 万本もの桜で覆いつくされている。この間、ダム湖周辺には桜図鑑園が整備され、約 80 種、約 100 本の桜を楽しむことができる。また、ダム湖周辺の道路も整備されてはきたが、今後、更なる整備を図るため、市房ダム湖周辺整備計画を策定していく。

◇水上村 web サイト：<http://www.vill.mizukami.lg.jp/>

まちの概要

日南市は、宮崎県の南部に位置し、東に日光灘を臨み、西は都城市・三股町、南は串間市、北は宮崎市に隣接している。宮崎市から日南市を経て鹿児島県に至る延長 112km は全国有数のリアス式海岸で、日南海岸国定公園の指定を受けている。

桜の概要

昭和 56 年から桜の植樹活動を実施している。植栽は自治公民館や各民間団体、誘致企業等の協力のもと、公共施設周辺や沿道など約 18,000 本程度の植栽を完了している。

中でも花立公園には 10,000 本の桜が植栽されており、多くの観光客が訪れる。12 月には桜愛好家が開発した「日南寒桜 1 号」が早咲きで開花する。他には竹公園（約 3,000 本）もあり、春の観光名所となっている。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

花立公園では毎年、さくら祭を実施し、県内外から多くの方に来園して頂いている。遊歩道や駐車場、道路の整備を行い、今まで以上に利用しやすくなっている。

また、日南市（旧北郷町）は 2008 年 4 月に森林セラピー基地として認定を受け、様々なイベントを行い、多くの来訪者に来て頂いている。海、山、川など自然豊かな資源と歴史ある城下町等を活かし、今後は、民間団体と協力のもと、新たな観光名所のツアー等を構築していきたい。



◇日南市 web サイト：<http://www.city.nichinan.lg.jp/>



まちの概要

吉野町は紀伊半島のほぼ中央に位置し、吉野杉や桧の美林に囲まれ、清流吉野川が町の中央を東西に流れる風光明媚な町である。一目千本と称される吉野山の桜を中心とした観光産業と、木材関連産業を基盤として発展してきた。南朝の哀史の里、山伏の宗教「修験道」の霊場としても名高く、数多くの人々が訪れている。

桜の概要

4月上旬から中旬頃、山の尾根から谷にかけてシロヤマザクラを中心に約3万本が咲き乱れ、山全体をほんのり桜色に染め上げる。平安時代の古今和歌集にも詠われている吉野の桜は1000年の歴史があり、修験道の聖地として信者による献木が古くから行われ、大切に保護されてきた。

その桜に惹かれ、古の時代より多くの文人墨客が訪れ、その美しさをしたためている。また、平成16年7月吉野山が「紀伊山地の霊場と参詣道」の中核の一つとしてユネスコの世界遺産に登録され、観桜期には毎年約40万人の観光客が訪れる。

桜についての考え方、今後の施策・整備について

吉野山の桜は、信仰の証として植え続けられ、現在は、財団法人吉野山保勝会や地元住民の奉仕によって維持されている。

近年、全国的に桜樹の樹勢の衰えが目立ち心配されているが、吉野山の桜も例外ではなく、ウメノキゴケに覆いつくされた木も目立ち、立ち枯れ被害に見舞われている。一昨年から京都大学の調査チームが現地調査に入り、衰退の根本原因の分析や対策を進めている。

また、官民が共同して「吉野の桜を守る会」を設立し、フォーラムやコンサートなどのイベントを通じて、吉野の桜の現状を広く訴えるとともに、調査や管理・保護育成にかかる費用に充てるため「さくら募金」を設立し、支援をよびかけ、全国から温かいご支援をいただいている。

地元先人達のたゆまぬ努力によって引き継がれてきた吉野山の桜を守るためには、まず町民が、先人たちの熱い想いを引き継ぎ、吉野山の桜に愛情を持ち、「自分の桜」という意識を高め、町民を中心に桜の保全活動が活発になることが重要であると考えている。



◇吉野町 web サイト：<http://www.town.yoshino.nara.jp/>